●書学書道史学会
会報
第17号

平成21年(2009)6月1日発行
編集・発行
書学書道史学会
会報委員会
東京都渋谷区桜丘町29-35
〒150-0031 美術新聞社内
TEL(03)3462-5251(代)
FAX(03)3464-8521(代)

学会創設二〇周年を迎えて

古谷　稔

二十世紀から二十一世紀にまたがる二〇年という歳月は、世界の情勢を見ても大きな変貌が捉えられる。本年二〇〇九年（平成二十一）は書学書道史学会が創設二〇年目を迎える。この二〇年の間、会員諸氏の不断のご尽力により、学会の方針や研究の進展が次第にかたちとして見えるようになったが、創設当初の学会とはかなり様子が変わった部分もあろう。書学書道史の分野は、全国的に活動する数多くの学会の中でも、東洋文化・日本文化の中に育まれた根強い伝統文化をテーマとしたユニークな存在であり、学界にも大きく寄与している。まさに本学会は、今後に期待が寄せられる学的集団であると考えられ、会員一同、心を新たにして取り組む時期が到来したと見るべきではなかろうか。

二〇〇六年度（平成十八）から理事長二期目となったいま、顧みると理事・役員をはじめ会員の方々の惜しみない援助をうけつつ今日に至っている。年一回の大会も無事に実施され、ほかに若手による研究発表会や特別鑑賞セミナーも学会の年中行事に定着し、また学会誌『書学書道史研究』の定期的刊行なども、それぞれ各担当のお骨折りのなか支障なく執り行われてきている。残された任期の中で成すべき課題は山積しているが、そうした課題とは、じつは学会にとっていずれも学会の活性化を期した試案と考えられるものである。さらに時代のニーズなるものにも工夫を施す必要があろう。

学会の歩みの中で、まず記憶に甦るのは、二〇〇〇年九月に日本教育会館で行われた「第四回国際書学研究大会」であろうか。その研究成果は『国際書学研究／二〇〇〇』（書学書道史学会編）の大冊となったことは周知の通りである。こうした東アジアの漢字文化圏といった一つの枠組みは、当然、その枠を超えて欧米諸国へと問題点が波及するであろう。本学会二〇周年に当たる本年の書学書道史学会大会は、日本大学文理学部を会場として実施されることが決定している。詳細は別途、要項を参照されたい。同大学会場での従来の総会、研究発表などとは別に、二〇周年ということで、その場を借りて、これまで学会に貢献された方々に敬意を表する機会に恵まれることを期待している。また、記念事業の一環として、学会誌『書学書道史研究』とは別に、記念論文集の刊行が計画されている。この詳細については、別途、正式な発表がなされるであろう。

学会の発足は、東洋文化を代表する「書」の学的追究とともに、書文化の活性化を期して、書家と研究者の横の繋がりや情報交換の場を必要として構想されたと聞く。こうした若き学生から経験豊富な書家や研究者たちは、この二十一世紀をどのように切り拓いて行くべきだろうか。諸賢の知恵を集結して邁進する以外に道はあるまい。まず、若い研究者にも希望が持てるような学会でありたい。そこで、すでに、前から「アワード制」の導入が計画されつつある。学会の活性化はこうした若手の育成にかかっており、かれらの研究成果が次代を担う書道文化の継承に不可欠となる。一方、二年後には国際大会の開催案も浮上している。書道文化の国際的な位置付けにより、さらにその価値を高めてゆくことが日本の書の将来に繋がるものといえよう。

（学会理事長）

第20回書学書道史学会大会のご案内

事務局

理事会は当日の午前中開催に変更
参加受付は当日午後12時30分から

第20回書学書道史学会大会は、「日本大学文理学部・百周年記念館」において、以下の日程で開催されます。詳細は『第20回（二〇〇九）大会のしおり』（十月五日発行予定）において、研究発表者の皆さんの『レジュメ』とともに「プログラム」「大会関係各種連絡事項」として、お知らせする予定です。

なお、今大会は例年と比べ日程に大幅な変更がありますから、ご注意願います。現在までに固まっている大要は、以下の通りです。

◇

○理事会＝第四十七回定例理事会は、例年の前日開催から変更され、大会当日の十一月七日（土）午前九時から十二時まで、日本大学文理学部・百周年記念館内会議室〈1〉に於いて開催の予定です。

○大会日程＝十一月七日（土）午後十二時三十分から、日本大学文理学部・百周年記念館にて受付開始。同一時から総会、同二時から同四時三十分まで、学会創設20周年記念行事（感謝状伝達式及び記念講演会等）。十一月八日（日）午前九時三十分から午後四時四十五分まで、研究発表。（今年も例年通り、すべての発表は単一会場にて順次行う予定ですが、発表件数に応じ臨時的な措置を講じる場合があります）

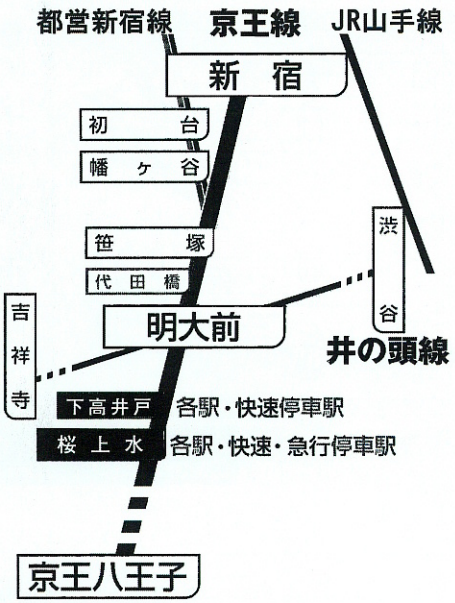
○懇親会＝十一月七日（土）午後五時から日本大学文理学部キャンパス内にて開催予定。

○記念シンポジウム・記念講演会＝現時点では詳細未定です。

○大会会場＝日本大学文理学部・百周年記念館（連絡先＝〒一五六―八五五〇　東京都世田谷区桜上水三―二五―四〇　TEL〇三―五三一七―九七〇六　国文学科事務室）

○会場への交通＝新宿駅より京王線「下高井戸」駅（乗車約一〇分）、あるいは「桜上水」駅（同約一二分）下車、徒歩八分。その他、都営新宿線で「笹塚」駅で京王線乗換（急行は直通）、また渋谷駅より井の頭線「明大前」駅で京王線乗換でも可。

○宿泊用のホテル＝大会会場が東京都内であり、ホテル事情は良好ですが、会員各自で早目に手配をお願いします。また役員・幹事・諮問委員等の各位の宿泊先についても、今大会では理事会日程が変更されたこともあり、今年度は例年と異なり手配致しませんので、その旨お含み置き下さい。



日本大学文理学部・百周年記念館

2009年度・第20回大会研究発表募集要項

今秋の「第20回書学書道史学会大会」は、日本大学文理学部・百周年記念館において別項のとおり開催されます。研究発表会場は今年も従来通り１室制とし、原則として分科会方式はとりません。出来るだけ多くの会員各位の積極的な発表を期待します。奮ってお申し込み下さい。

記

1）研究発表日時：平成21年11月８日(日)午前～午後
2）発表時間：各30分（発表20分・質疑応答10分）
3）発表申込み方法：適宜の形式の「大会発表申込書」に標題・住所・氏名を明記し、800字程度のレジュメを添えて提出して下さい。
4）レジュメの形式：原則としてワープロで作成し、テキスト形式でCDもしくはフロッピーディスクに保存して、印字出力した別紙と合わせて提出して下さい。メールでの送信も受付けます。その場合は、印字出力したものを合わせてfax送信して下さい。
5）発表申込み締切り：平成21年７月21日(火)　＝必着＝
6）発表者の決定と連絡：大会での発表者は、学会・大会運営委員会で決定し、個別にご連絡します。
7）『大会のしおり』（レジュメ集含む）の配布：10月上旬に全会員宛に配布します。

※大会での発表者については、学会誌『書学書道史研究』第20号（平成22年秋刊）への論文投稿申込みがあったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込みをする必要はありません。
※発表者の学会誌用論文原稿の締切りは、平成22年３月末日です。原稿の採否は査読委員会で決定されます。学会誌掲載についてご不明の点は、編集局まで文書でお問合せ下さい。
※「大会発表申込書」とレジュメ（CDもしくはフロッピーディスク・印字添付）は、封筒に「発表申込み・レジュメ在中」と明記して下記宛にお送り下さい。不着事故をさけるため、簡易書留郵便または宅配便をご利用下さい。

〈送り先〉〒150-0031東京都渋谷区桜丘町29−35　ヴィラ桜ヶ丘ビル７Ｆ
Tel 03-3462-5251　Fax 03-3464-8521　e-mail: ssg@kayahara.com
書学書道史学会国内局・大会運営委員会　宛

第５回「書学書道史学会会員のための特別鑑賞セミナー」開催報告

平成21年３月８日(日)午後１時から、東京国立博物館・東洋館第８室において、「第５回特別鑑賞セミナー」を開催した。昨年度の学会・神戸大会総会でアナウンスされた方針に沿い、従来の特別鑑賞セミナーの形式を改め、今回は同館で企画展示されているものを特別解説付きで鑑賞するというスタイルで進めた。

この時期、たまたま東京国立博物館と台東区立書道博物館の共同企画による「法帖と帖学派」展の開催期間中に当たっていたため、東京国立博物館学芸研究部・研究調査課長の富田淳氏より列品解説をしていただいた。

当日の参加者は予想をはるかに上回り、およそ七〇名を数えた。解説のための適当な場所を確保できなかったため、展示会場内で立ったままで解説を聞いていただかざるを得なかった。この点、参加者にとってはやや不満が残ったのではないかと思われる。今後の検討課題である。なお、台東区立書道博物館でも同様な解説の可否を検討していたが、同博物館のスペースの関係で断念せざるを得なかった。

今回のセミナー開催に当たりご尽力頂いた関係各位には、厚く御礼申し上げます。　（国内局）

第5回研究発表会開催のお知らせ

国内局

○「研究発表会」も今年で五回目を迎える。発表者の募集に当たって今回初めて公募制を採用したところ、三名の応募があり、全員に発表をお願いすることになった。また、〈会員による研究余話〉は、このほど新聞でも話題になった〝日本の木簡と難波津の歌〟に関して、森岡隆氏より話していただく。

○日時＝7月5日(日)12・30＝受付開始
13・00＝開会　16・00＝終了予定

○会場＝跡見学園女子大学文京キャンパス2号館1階　ブロッサムホール（丸ノ内線・茗荷谷駅下車徒歩2分）

〈研究発表〉

1　「小野お通の書―お通流の形成とその受容」

筑波大学大学院博士後期課程　小宮山碧

小野お通は、安土桃山から江戸前期にかけて生きた能書の女性である。『筆蹟流儀景（系）図』には女性として唯一書流の祖として名が記され、江戸中期には、後の長谷川妙貞、沢田吉とともに寛永以後の「女の三能書」と称された（柳亭種彦『足薪翁記』）。没後は名を冠した女筆手本が板行されており、江戸期に多数板行された、筆者名の明らかな女筆手本の先駆けとなっている。

その書に関しては日本書道史、日本教育史の分野から言及、研究がなされ、主に「女筆」や「女流」の観点から高く評価されてきた。しかし、掲載される図版が限られており、概括的な評が大半を占めているのが実情である。よって、まとまった数の遺墨の収集や、特徴を述べる上での具体例の明示などに課題が残されている。また、調査を進める中で、複数の系図・系譜史料にお通流の名が確認された。流派の形成やその受容についても論及の余地があるものと思われる。

本発表では、諸説ある生没年を整理した上で、お通の書の全体像を女筆手本も含めて捉え、その特徴を具体例も交えつつ指摘したい。同時代、後世の受容の様子も併せて調査し、女流の嚆矢とも言うべきお通流の形成ついても考察したい。その書と流派の特徴を明らかにすることで、江戸期における女筆流れを明らかにする一助となるものと思われる。

2　米芾の書美の形成

大東文化大学大学院博士前期課程　中村　薫

米芾の作品は多く残されているが、信の置ける有紀年のものはわずか二十点程度に止まる。年紀は無いが、初期の米芾的特徴が窺えるものに「三呉帖」、「法華臺詩」、「道林詩」、「砂歩詩」が有る。

これら四帖の書風は、すべて「卜商帖」等に通じる欧法行書の特徴を持つ。「書史」によると、米芾は欧陽詢書の度尚帖を二十九歳、庾亮帖を三十二歳の時に所収し、自ら題跋して「渤海児は快、字もまた険絶…壮なること対越するがごとく、俊なること跳躍するがごとし」と述べ、後学のものには到底その技を窺うことができないとまで絶賛した。

また一方、「海嶽名言」において「欧陽詢の道林之詩、寒儉にして精神なし」あるいは「柳、欧とともに醜怪悪札の祖と為す」と述べ、米芾の審美観の遍歴の痕、書美の形成の過程をそこに見る。

本研究では「苕溪詩巻」が書かれた時代頃までを対象として、米芾の学書について、「書史」、「寶晋英光集」、「海嶽名言」、「長沙府史」などから「三呉帖」等四帖を中心に考察する。特徴を抽出するために、統計的、数値的形体分析を適用して考察する。

3　「台湾日本統治時代における日本人書家の活動と影響―日下部鳴鶴とその門流書家を中心に―」

大東文化大学大学院博士前期課程　香取潤哉

近代日本書道史を研究する上で、日下部鳴鶴の存在と彼の残した功績は大きく、これまで多くの研究者が様々な形で彼を取り上げて研究を行ってきた。また、彼の門流の書家についても、同様に多くの研究が行われてきた。しかし、それらの研究の大部分は、同時代の日本国内もしくは中国との書道交流のみに焦点が当てられた、極めて限定的な内容となってはいなかったであろうか。

日本と同じ東アジアに位置し、書道文化を有する地域としては中国、韓国の他に台湾をあげることができる。周知のように、台湾は一八九五年から一九四五年までの51年間、日本の統治下におかれた地域である。台湾では、近年様々な形で日本統治時代の書に関する研究や展覧会等が行われている。しかし管見の限りでは、日下部鳴鶴とその門流書家についての活動や足跡について、具体的な資料を基に体系的・学術的観点に立って行われた研究が少ない。

そこで本発表では、上述の問題を解消すべく、台湾日本統治時代における日下部鳴鶴とその門流書家の具体的活動と足跡について実態の整理を行い、彼らの活動が当時の台湾書壇へ与えた影響と発展、書の特徴、評価等について考察を行う。

さらに、彼らが滞在中に行った活動と足跡が、当時の日本と台湾の間における書道交流上にどのような意味と役割を持っていたのか、そしてその痕跡が現代の台湾書壇にどのような形でみられるのか、ということについても解明を行い、日下部鳴鶴とその門流書家の書業の価値を一層高め、今後の日台書道交流の発展の一助となるような発表としたい。

〈会員による研究余話〉

◆万葉歌最古木簡の発見

筑波大学大学院教授　森岡　隆

『書学書道史研究』九号所載稿から十年、難波津の歌の遺例確認に努めていますが、当初は『古今和歌集』仮名序の記述に言及することになるとは思いもしませんでした（同誌一六号小稿）。さらに、思わぬ成果もありました。万葉歌を記した最古の木簡の発見です。左文字で記された難波津の歌や、左書きの書跡・落書に慣れていたことが幸いしたようです。

仮名発達史を丹念に調べようとしたことでしたが、その中で気づいたり、副産物に恵まれたり。これから調べを進める方への参考になれば幸甚です。

平成20年度 科研(科学研究費補助金)採択課題一覧(本会関係分)

本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。
複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者(会員)とを併記した。
所属の後の数字は、平成19年度のみの補助金の額。

基盤研究（A）　継続（平成18－）　南北朝～隋代における石刻造像銘の調査及びその地域史的宗教環境の研究　宮崎洋一（広島文教女子大学）　※代表：佐藤智水（龍谷大学）7,410千円

基盤研究（B）　継続（平成17－）　日唐律令比較研究の新段階　池田温（創価大学）　※代表：大津透（東京大学）4,030千円

基盤研究（B）　継続（平成17－）　英仏所蔵敦煌・吐魯番出土漢文文献の古文書学的比較研究　鶴田一雄（新潟大学）　代表：関尾史郎（新潟大学）　3,120千円

基盤研究（B）　継続（平成17－）　戦国楚簡の総合的研究　福田哲之（島根大学）　※代表：湯浅邦弘（大阪大学）4,420千円

基盤研究（B）　継続（平成18－）　魯迅『解剖学ノート』の解読に基づく、20世紀初頭の留学生教育に関する事例研究　阿部兼也（東洋大学）　※代表：島途健一（東北大）5,980千円

基盤研究（B）　継続（平成18－）　アジア的美意識とは何か　萱のり子（大阪教育大学）　代表：神林恒道（立命館大学）4,680千円

基盤研究（B）　継続（平成18－）　東アジア仏教確立期における中国仏教石刻文物の資料的地域的研究　気賀沢保規（明治大学）5,070千円

基盤研究（B）　継続（平成18－）東アジア仏教確立期における中国仏教石刻文物の資料的地域的研究　田熊信之（昭和女子大）　代表：気賀沢保規（明治大学）5,070千円

基盤研究（B）　継続（平成18－）　出土史料による魏晋南北朝史像の再構築　福原啓郎（京都外国語大学）※代表：伊藤敏雄（大阪教育大学）4,420千円

基盤研究（B）　継続（平成19－）　建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究　赤尾栄慶（京都国立博物館）4,160千円

基盤研究（B）　継続（平成19－）　中国近代書論の文献学的研究　菅野智明（筑波大学）910千円

基盤研究（B）　継続（平成19－）　故宮博物院に収蔵される甲骨文の来源踏査―未刊本『甲骨刻辞』の解読を通して―　東賢司（愛媛大学）1,430千円

基盤研究（B）　新規　アメリカ収蔵「書跡」データ収集と整理のための調査研究　河内利治（大東文化大学）2,860千円

基盤研究（C）　継続（平成19－）　「高野切本古今集」全20巻の復元研究―古筆復元の方法論の確立―　森岡隆（筑波大学）650千円

基盤研究（C）　新規　中国北朝墓誌工房の基礎的研究　澤田雅弘（大東文化大学）1,170千円

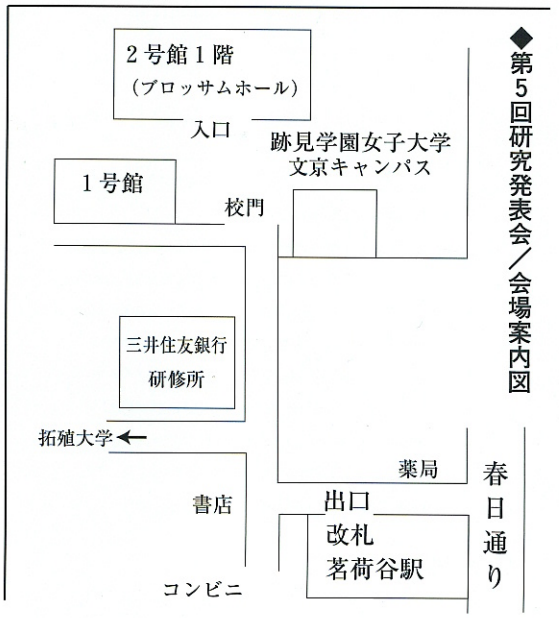
基盤研究（C）　新規　記述力の変容を促す書字行動及び書字習慣の追跡と分析　鈴木慶子（長崎大学）2,080千円

基盤研究（C）　新規　戦国簡牘文字の地域差に関する基礎的研究　福田哲之（島根大学）　780千円

萌芽研究　継続（平成18－）　左利き児童のための書字教材開発に関する基礎的研究　松本仁志（広島大学）500千円

特定領域研究　継続（平成17－）　東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成――寧波を焦点とする学際的創生――：総括班　板倉聖哲（東京大学）　代表：小島毅（東京大学）26,100千円

特定領域研究　継続（平成17－）　寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク　板倉聖哲（東京大学）　代表：井手誠之輔（九州大学）7,800千円



学会ＨＰ・メンテナンスデスクだより／ユーザー登録をお願いします。

事務局

学会ＨＰ（ホームページ）については、二〇〇七年秋以降、「試験運用」状態のまま推移して既に一年半が経過しました。今や各大学等でもＷｅｂ利用や学内の閉鎖的ネット環境の整備が急速に進む中、本学会のこの面での立ち遅れが際立ってきています。

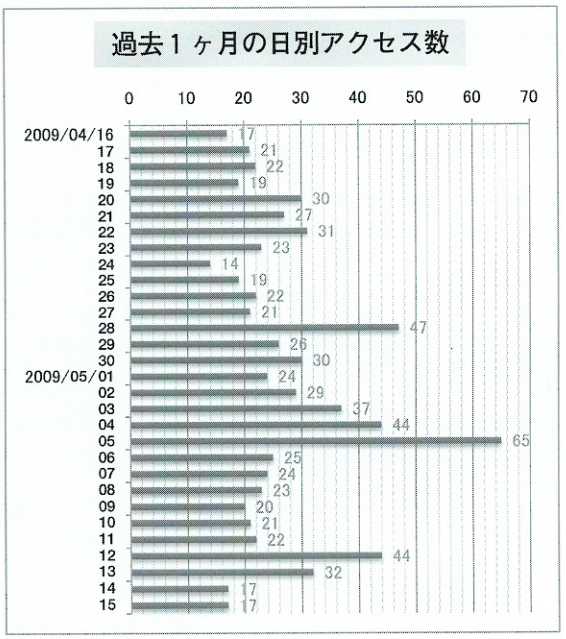
たとえば、ここに掲出したデータは最近、または過去一年の学会ＨＰへのアクセス状況です。これを見ると、一定のアクセス数があるようにも見えますが、実は過去一年間ほとんど変化がなく、昨秋、「神戸大会」関係の情報やデータをアップした前後でも、目立つ変化は見られていないのが実情です。

とはいえ、全くの部外の方がＨＰをみて学会に興味を持ち、問い合わせて来られたり、申込書をダウンロードして入会を申し込んで来る方も現実におられますから、全然機能していない訳ではありません。

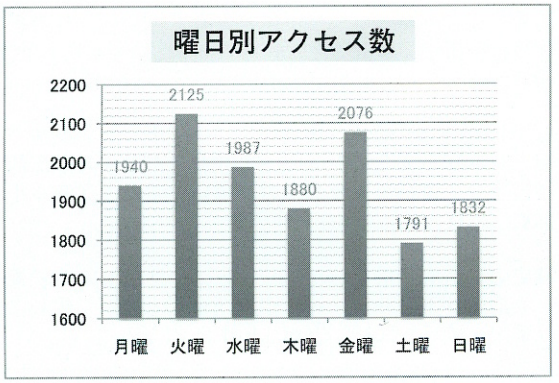
学会ＨＰを開いて頂くとお分かり頂けますが、現在、そうした内外無差別に学会情報を発信するトップページ以下の各ページと、ユーザー登録をした方々に対する特別情報の提供が可能なページの、二系統のシステムが稼働しています。ご覧頂くと、トップページのアタマに「username」と「パスワード」の入力欄があり、試しに未入力のまま「ログイン」ボタンを押してみると、「ユーザ名」「パスワード」の入力欄が現れ、「今すぐ登録？」と尋ねてきます。事務局では、この登録動向を見ながらＨＰの機能やサービス内容を整備することにして注視し続けています（ログインしなければ、機能やサービス内容は分かりません）が、実はこれまでのところ登録者は僅かに一名という状況です。

そこで事務局では、本年度より事務局内にＨＰ・メンテナンスデスクを設置し、当面のＨＰ積極運用に道をつける方針です。六月中旬以降、ＨＰ上での「ユーザー登録」を、会員用と非会員用の二系統に分け、それぞれに登録ユーザー専用のブログ、アルバム（ギャラリー）、ニュース投稿、論文掲載、その他の機能やサービスを可能にしていきます。会員各位でネット環境をお持ちの方々には、ぜひ一日も早く、取り敢えずユーザー登録をお願いしたいと思います。会員の方々はまず、ssg@kayahara.com 宛にメールでパスワードをご請求下さい。なお、学会ＨＰのアドレスは、次の二種が利用可能です。

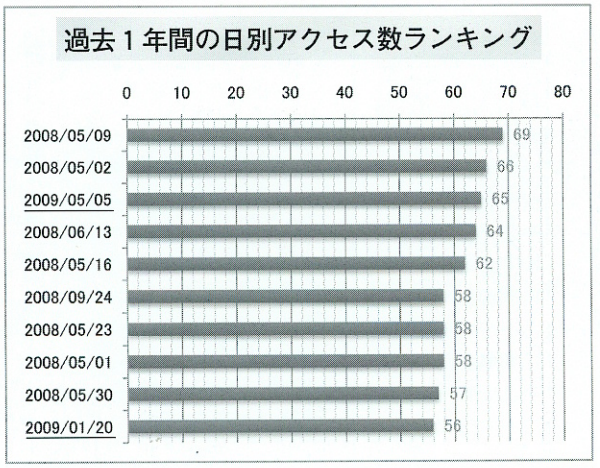
http://書学書道史学会.jp/
http://shogaku.xrea.jp/



※2009/04/16～05/15



※過去１年間のトータル



※下線以外は2008年

事務局だより

◆学会創設20周年記念事業の実施について

学会では、3月21日、4月19日の両日にわたり常任理事会を開き、今年の「創設20周年」を記念する事業の実施について協議を重ねました。その結果、当面次のような基本方針と暫定計画案を固め、今後理事会等でさらに詰めの協議を行って事業実施に万全を期す考えです。

一、20周年記念事業は、総予算規模を四〇〇万円とし、前年度に措置済みの一〇〇万円に加え、今年度に二〇〇万円、来年度に一〇〇万円を措置することとする。万一これで不足する場合は、予備費を充てるなどして、全額を通常会計の財源で賄う。

二、今秋、東京都世田谷区の日本大学文理学部・百周年記念館を会場に開催予定の第20回大会を「記念大会」と位置付け、名誉会員を中心とする長年学会と斯学の発展に寄与した会員諸氏、ならびに長年賛助会員として学会財政に寄与した各団体（現時点で賛助団体でない団体も対象とする方向）に対して、感謝状を呈する。感謝状の伝達式典に合わせて、記念講演会も開催する。

三、書学書道史研究の最前線を広く斯界に示す狙いで、名誉会員・参事・現役役員など約三〇名と、海外の一線研究者一〇名程度を中心とする『記念論文集』を来年秋をめどに編集して、学会内外に配布する。これは、広く頒布も検討する。

四、同『記念論文集』には、特定のテーマで論文を会内公募し、この優秀論文を合わせて収録する案も検討中。公募論文のテーマとしては、「近・現代」関係を設定する案が浮上している。

また事務局では、「20周年」の記念事業に関するさらなるアイデアを募り、また衆知を結集すると共に、本年の「記念大会」を出来るだけ盛り上げる狙いで、会員諸氏を対象にアンケートを実施します。幅広いご協力をお願いします。

◆修了・満期退学等に伴う学生会員の「会員手続き」について

学会では昨年度より、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は、学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了し、あるいは満期退学・自主退学、その他の理由により学籍を失った時（学割証の発給対象でなくなった時）に、一旦「学生会員資格終了」とするものです。該当の方が引き続き学会会員として留まろうとする場合には、必ず「会員手続き」が必要です。この「会員手続き」用紙は、学会ホームページから、ダウンロードしてご利用下さい。この「会員手続き」は届け出事項のため、書類提出のみで、学生会員資格の終了時点から自動的に一般会員資格が付与されます。

なお、一般会員の方が大学院に社会人入学するなどして学生会員の適用を受けようとする場合には、「学生会員移行申込書」の提出を要します。この申込書を提出せずに学生会員の資格を得る（学生会費の適用を受ける）ことはできません。また、「会員手続き」なしに一般会員に戻ることもできません。

従って、今春学生会員資格を失った方、一方今春大学院に社会人入学した方で学生会員の適用を受けようとする方は、至急手続きをお願いします。一般会員のままで大学院に通う場合は、手続き等は必要ありません。また一昨年度までに入会した学生会員の方で、今春学生会員資格を失った方も、制度の趣旨に照らし、全員「会員手続き」をお取り下さるよう、お願いします。

◆本年度分年会費をご納入下さい。

本号に年会費をご納入頂くための郵便振替用紙を同封しました。振替用紙が同封されていない方は、すでに二〇〇九年度分の会費が納入済みの方です。また、二〇〇九年三月現在、満三年分以上会費を滞納している方には、「**●会費至急納入願**」と記載のある振替用紙を同封しています。この用紙同封の方は、必ず6月30日までに全額をご納入下さい。ご納入がない場合は、昨年度より導入されました「長期会費滞納者の自動退会（除籍）制」の適用対象となります。また、会費滞納による除籍会員に対する学会の会費請求権は消滅せず、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入要請を続けることが総会決定されていますので、ご了承下さい。

◆次回理事会は7月24日（金）に開催されます。

学会の第四十六回臨時理事会は7月24日（金）午後2時から5時、事務局至近の渋谷・桜丘町施設で開催されます。役員各位には別途ご連絡を差し上げますが、予めご予定にお入れ頂ければ幸いです。

21年度事業・活動計画案（暫定）

4月19日	常任理事会会議（於本部）
5月10日	会報委員会・編集会議（於本部）
6月1日	《会報》第17号発行
7月　日	編集局・学会誌編集会議（於筑波）
7月5日	第5回研究発表会（於跡見女子大・文京）
7月21日	第20回大会発表申込締め切り
7月24日	第46回臨時理事会会議（於桜丘町施設）
8月1日	第20回大会運営委員会会議（於本部）
9月　日	編集局・学会誌編集会議（於本部）
9月30日	学会誌第19号発行
10月5日	第20回大会「大会のしおり」発行
11月7日	第47回定例理事会会議（於日大文理）
11月7・8日	第20回大会（於日大文理・記念館）
11月29日	会報委員会・編集会議（於本部）
12月1日	「会員名簿／2009」発行
12月10日	《会報》第18号発行
12月31日	学会誌第20号投稿申込締め切り
2月11日	常任理事会会議
2月15日	第11期役員改選選挙告示
3月　日	第6回鑑賞セミナー
3月5日	第11期役員改選選挙投票締め切り
3月7日	第11期役員改選選挙開票
3月14日	第11期役員会選挙当選理事緊急懇談会
3月31日	第48回臨時理事会会議
3月31日	学会誌第20号投稿原稿締め切り

談話室

金冬心風の文字

角田勝久

国内外で活躍した写真家・濱谷浩（一九一五―一九九九）の写真集『學藝諸家』（一九八三）は各界著名の肖像写真百二十点で構成、書家では和服姿で半切に臨む鈴木翠軒が掲載されている。書も手がけた棟方、會津、高村などの他に俳優、学者、実業家と内容は多彩で興味深い。

彼等の風貌には、時を経て辿り着いた確固たる信念が如実に表れ、写真と雖も本人と対峙しているような緊張感が漂う。巻末で濱谷が「写真は人間の内側までは入りこめない。外側だけが表現世界なのだ。その外側を撮るのは写真家の内側にある何かなのだ」と言う。書も作者の内側を表す。會津八一が金冬心風と評す濱谷の字も、また興味深い。

猶、七月三日より新潟市會津八一記念館で、濱谷と會津の二人展が企画されている。

千里の道も一歩から

金子　馨

名筆に出会うと、書跡から伝わるメッセージに心が揺さぶられます。この書跡に込められた筆者の意識（書道観）を自分なりに汲み取りたいと思っていますが、なかなかに難しいものです。

ならば、世に伝わる書論を繙き、その一助としたいと考えています。が、これまた心許ない状況にあるのです。

そこで、伝存する日本の書論を分類整理し、体系化していきたいと思っています。目下、入木道三部集の一つである『才葉抄』を取り上げ、当時の能書家における意識の所在を確認したいと目論んでいます。「千里の道も一歩から」との言葉を噛みしめつつ、目標に向かって精進していく所存です。

「学習指導要領」告示を受けて

山本まり子

近年、教育基本法、学校教育法改正が行われ、それらを踏まえ、小学校、中学校、高校の学習指導要領が告示された。「知識基盤社会」の時代とされる現今では、知育偏重によって引き起こされる思考力・想像力等の低下への懸念から、引き続き、「『生きる力』をはぐくむ」という理念の重要性が再確認された。

勿論、それらの趣旨の理解も大事ではあるが、改訂されるに至った経緯を探ることにより、あらためて学習の意義を問いたい。真の「豊かさ」とは何か。履修後にはどのような世界が待っているのか。一人一人、その世界を実感できるような授業づくりを目指したいと思っているところである。

「離洛帖」雑感

水田至摩子

美術館での勤務が14年目を迎え、責任ある立場になった。日々雑多な仕事に囲まれていると、ふと「佐理だったらなあ」と恨めしく思うことがある。

都から大宰府に赴任する際、摂政に挨拶をし忘れた佐理は、大宰府目前の下関から非礼を詫び、うまくとりなしてほしいと甥の藤原誠信に頼む手紙を奔放な筆さばきで認めた。そもそも、出発の挨拶を怠るなんて、そんなことありえるのか？いや、佐理ならあったのかもしれないし、周囲も佐理ならと許したのかもしれないが…。

私にとって「離洛帖」は、周りに助けられていることを忘れてはならないと教えてくれる自戒の書でもある。

会員動静

○河野　隆（会員）＝大東文化大学教授昇任

○神野雄二（会員）＝熊本大学教授昇任

○永由徳夫（会員）＝群馬大学准教授新任

○笠嶋忠幸（会員）＝出光美術館学芸課長代理昇任

住所変更

○石橋隆文（会員）〒330-0074さいたま市浦和区北浦和二―一九―一七　二―四〇一

○柿木原くみ（理事）〒170-0003豊島区駒込六―一―二―一〇四

○古木誠彦（会員）〒811-2310福岡県糟屋郡粕屋町花ヶ浦三―二―一―五〇二

○佐藤　充（会員）〒396-0010伊那市境一八二八―一―一―一〇一

○田中之博（会員）〒411-0811三島市青木二八二―一〇―五〇八

○橋本貴朗（会員）〒355-0012東松山市日吉町八―一二

○矢野千載（諮問委員）〒020-0866盛岡市本宮字宮沢五三―二―一五〇一

○山本幸博（会員）〒165-0032中野区鷺宮五―一九―二〇―二〇二

○渡瀬　仁（会員）〒435-0038浜松市南区三和町一八三―七

編集後記

◆高校生や大学生を対象とした公募展が盛況だが、このような若い世代が書学書道史研究にも興味を持つような積極的な仕掛けを考えていく必要があるのではないだろうか。（石井　健）

◆ある展覧会に向けて、亀田鵬齋詩「浅間嶽」を書いていた。鵬齋には、天明三年の浅間山大噴火の際に蔵書を売り払い、そのお金を被災者の救済にあてたという逸話がある。程なくして、浅間山の噴火を伝えるニュースに驚いた。（亀田絵里香）

◆昨年五月のある日。いつもの散歩道。先には窯元があった。何気なく覗き、陶印と陶硯を作ってみた。その色鮮やかな青と若葉の緑が目にしみた。今も大切に手元に置いてある。今年も緑の季節がやってきた。（山本まり子）

◆桜花から新緑へ一気に衣替えした今春、ソメイヨシノ発祥の地へ転居し染井霊園への散歩を楽しんでいます。染井には二葉亭四迷や高村光太郎等、隣接の慈眼寺には芥川龍之介や谷崎潤一郎等が眠っています。当分の間お墓参りが続きます。（紫）